

1 名 称 いぬぼうさき はくあ き せんかいたいせきぶつ 犬吠埼の白亜紀浅海堆積物

2 所 在 地 千葉県銚子市犬吠埼

3 指定基準

天然記念物の部三 地質鉱物のうち

(一) 岩石、鉱物及び化石の産出状態、(二) 地層の整合及び不整合、(四) 生物の働きによる地質現象

4 説 明

白亜紀の地層は、関東地方より西では連続的に分布している。銚子地域の白亜紀の地層はこの連続的分布の東のはずれにあり、我が国の地史を考える上で重要な位置を占めている。また、この地域の白亜紀層中には、堆積構造や化石など当時の浅い海で堆積した証拠が豊富であり、浅い海に堆積した地層の典型としても貴重である。千葉県（房総半島）を構成する地層は大部分が新第三紀（およそ 2500 万年前）以降の新しい時代の比較的柔らかな地層であるが、銚子地域には、千葉県としては異色の古く堅い地層が露出している。銚子が浸食されずに残ったのもこの地層が露出していたおかげである。

銚子半島東部には白亜紀（1 億 4,000 万年前～6,500 万年前）の銚子層群と呼ばれる地層が分布している。銚子層群は礫岩、砂岩、砂岩・泥岩互層などの堆積物からなり、浅海性の軟体動物化石やアンモナイトなどを産出する。銚子層群

は、下位よりあしかじま海鹿島層、きみがはま君ヶ浜層、いぬぼうさき犬吠埼層、とりあけうら西明浦層、ながさきばな長崎鼻層で構成される。これらの地層は、沖合から浜辺にかけての浅い海で、嵐の影響を強く受けて形成されたと考えられている。

犬吠埼灯台周辺には、犬吠埼層（約 1.19～1.13 億年前）が分布している。犬吠埼層は細粒・中粒砂岩ならびに細粒・中粒砂岩・泥岩互層で主に構成される。砂岩には、平行層理のほか、ハンモック状斜交層理など、嵐の堆積物に特徴的な堆積構造が発達している。さらに、これらの堆積構造に伴って、浅い海での波でつくられたウェーブリップル葉理、浅い海の流れてつくられたカレントリップル葉理、などの堆積構造がみられる。また、砂岩には、浅い海の堆積物に特徴的な生物の痕跡の化石であるマカロニクナス (*Macaronichunus*) が認められる。砂岩と互層する泥岩は一般に砂質で、当時の海底に棲んでいた生物による攪乱が著しい。犬吠埼灯台周辺の海岸では、犬吠埼層の地層が様々な方向から観察でき、沖合から浜辺にかけての堆積環境で発達した嵐の堆積物と浅い海での様々な堆積物の特徴を詳細に観察することができる。

こうした地層は、白亜紀における浅い海の堆積物の典型として、さらには私たちが毎年経験する台風などの嵐に伴って、海底でどのような自然の営みが発

生しているのかを理解する上でも大変重要である。天然記念物に指定し、永く保存を図ろうとするものである。

5 指定範囲

千葉県銚子市犬吠埼

- ① 面積 16,947.5 m²
- ② 土地所有関係の概要 市有地 10,500.0 m²
国有地 6,447.5 m²

6 他の法令による制限

- ① 自然公園法による国定公園内の特別地域（水郷筑波国定公園）
- ② 千葉県文化財保護条例による天然記念物（犬吠埼の化石漣痕）

7 現況

海岸，崖地，園路整備済み

8 調査履歴

「千葉県天然記念物緊急調査報告書」（平成7年3月；千葉県教育委員会）

9 指定後の保護方針

- ① 現状変更に対する基本方針・考え方
学術調査，活用のための整備，保存上ないしは防災上必要なもの以外の現状変更は認めない。
- ② 保存管理活用に対する方針
地層の公開活用のために必要な整備を行う。

10 指定方針

- ① 選定の考え方
当面わが国を代表する各地質時代の主要な堆積岩の露出地のうち，保存が良好で形成過程やメカニズムが明瞭なものについて指定を検討する。新たに発見された露出地については別途検討する。
- ② 同種の指定物件
浪打峠^{なみうちとうげ}の交叉層^{こうさ}，樋口沢^{ひぐちざわ}ゴトランド紀化石産地(岩手)，歌津館崎^{うたつたてざき}の魚竜化石産地及び魚竜化石(宮城)，山科^{やましな}の大桑層^{おんま}化石産地と甌穴^{てどりかわ}，手取川流域^{てとりかわ}の珪化木産地(石川)，福地^{ふくち}の化石産地(岐阜)，白浜^{いわみ}の化石漣痕(和歌山)，石見^{いわみ}畳ヶ浦^{たたみがうら}(島根)，秋吉台^{あきよしだい}(山口)，千尋崎^{ちひろざき}の化石漣痕(高知)，青島^{あおしま}の隆起海床^{りゅうきかいしょう}と奇形波蝕痕^{きけいはしよくこん}(宮崎)

③本物件の位置づけ

本州最東端に位置し，白亜紀の浅海で堆積した地層が典型的に観察できる場所として，また西南日本に連続的に分布する白亜紀層の東端の露出地として地史学上も重要である。

11 今回指定する必要性

平成7年の千葉県地質鉱物緊急調査事業により，学術的価値が明らかとなったため。